

東京大学での所属学部/研究科・学年(渡航開始時): 法学政治学研究科 博士1年	
留学先大学:	Yale University
留学先所属学部/研究科等: Fox International Fellowship	
卒業・修了後の就職(希望)先: <input type="checkbox"/> 1.研究職 <input type="checkbox"/> 2.専門職(医師・法曹・会計士等) <input type="checkbox"/> 3.公務員 <input type="checkbox"/> 4.非営利団体 <input type="checkbox"/> 5.民間企業	
6.起業 7.その他()	

<p>1. 留学先大学の概要</p> <p>米国コネチカット州ニューヘイブン市に所在する私立大学。東海岸の名門校アイビーリーグの一つ。</p>
<p>2. 留学の動機</p> <p>アメリカにおける政治学研究を学ぶため。</p>
<p>3. 留学の時期など</p> <p>①留学前の本学での修学状況: 西暦[2011]年 学部/修士/博士[1]年の[夏]学期まで履修</p> <p>②留学中の学籍: 休学/留学</p> <p>③留学期間: 2011 年 8 月 ~ 2012 年 6 月 学部/修士/博士[1]年時に出発</p> <p>④留学後の授業履修: 西暦[2013]年 学部/修士/博士[2]年の[冬]学期から履修開始</p> <p>⑤就職活動の時期: 西暦[]年 学部/修士/博士[]年の[]月頃に(行った/行う予定)</p> <p>⑥本学での単位数: 留学前の取得単位[10]単位 留学先で取得し、本学で認定された単位[0]単位 留学後の取得(予定)単位[10]単位</p> <p>⑦入学・卒業/修了(予定)時期: 西暦[2011]年 [4]月入学 西暦[2015]年 [3]月卒業/修了</p> <p>⑧本学入学から卒業/修了までの期間: [4]年[]ヶ月間</p> <p>⑨留学時期を決めた理由</p> <p>博士課程のなるべく早い段階でアメリカの大学でトレーニングを受けるため。</p>
<p>4. 留学の準備</p> <p>①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)</p> <p>フォックス・プログラムを利用したため、特に煩雑な手続きは無かった。</p> <p>②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)</p> <p>J1 ビザをアメリカ大使館にて申請。大使館でのインタビューから取得まで約 1 週間。書類が届き次第早めに取得するとよいと思う。</p> <p>③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)</p> <p>予防接種は特に要求されなかった。出発前に持病の薬を多めに処方してもらった。</p> <p>④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)</p> <p>保険は現地の大学のプランに加入することになっていたため、出発前は特に準備しなかった。</p> <p>⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)</p> <p>休学は認められていなかったため、特別な手続きはしなかった。留学中は専攻指導のみ単位を取得した。</p> <p>⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)</p>

特別な準備はしなかった。大学内外の日常生活で用いられる表現などはもう少し準備すればよかった。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本に提出する書類などで印鑑が必要なことが多いので持っていくと便利。現地で買えるものと買えないものを現地に居たことのある人に聞いておくとよいと思う。日本語の書籍なども。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

Quantitative Analysis1, Fundamentals of Modeling1, Introduction to American Politics, Quantitative Analysis2, Fundamentals of Modeling2, Business Power in American Politics, Speaking Fluently1

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

博士課程の授業を一学期に3つずつ聴講した。文献購読の授業はその予習がメイン、統計学とゲーム理論の授業は毎回出される課題を独力で取り組んだ後、他の受講生と協力して進めるというパターンが主であった。その他、自分の研究課題の作業も随時進めた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

単位取得は認められていなかったが、三つずつ聴講した。一つの授業が週に2回ある場合が多かった。学習・研究時間は週当たり70時間ほどだと思う。

④学習・研究面でのアドバイス

東大で学ぶのが難しいことを、留学を利用して学ぶのが良いと思う。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

速いテンポで進む議論に入っていくのはやはり難しいので、使うと思われる表現などをある程度準備してから授業に臨むとよいのではないかと思う。

7. 生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)

フォックス・プログラムが提供してくれたアパートに住んだ。家賃は支給金から差し引かれていて払う必要がなかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は冬の寒さが厳しいとのことであったが、暖冬のため過ごしやすかった。やや治安が悪いが、特に問題は生じなかった。食事はレストラン、食材含め比較的充実していた。たいてい徒歩で必要な場所には行けた。お金は、現地で開設した銀行口座にイェール大学から月に2度支給金が振り込まれたので、それで充分であった。デビットカードを主に用いて買い物の支払を行った。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は悪かったが、幸い被害には逢わなかった。医療機関は利用しなかったため不明だが、大学のクリニックなどがすぐに利用できる場所にあった。体力的に無理をしないよう心掛けた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

渡航と帰国の航空賃は現地の大学から支給された。毎月約 1000ドルが支給され、家賃以外の生活費に使った。食費などすべて含めて月 700ドル~800ドルほどかかった。

・留学に要した費用総額とその内訳

自己負担はほぼゼロであった。日本からの数回の荷物の輸送費などで、計数万円ほどかかった。また、一時帰国の飛行機代が往復で 13 万円ほどかかった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

特に受給しなかった。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

映画や食事会などによく出かけた。長期休暇は米国内に留学中の知人と会ったり、旅行したりした。

8. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面では、留学生向けの英語の授業を取ることができた。全般的にサポート体制は充実していた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

いずれも東大と同等かそれ以上に充実していたが、とりわけ無線 LAN が大学内のどこにいても自由に使うことができたのは非常に便利であった。ただし食堂に関しては、イェール大学に学籍を持ちミールプランに加入している人の同伴以外で入ることはなかった。

9. 留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

特に変化はないが、米国内での就職を目指す場合は米国での学位取得が必須であることを再認識した。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

10. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

最先端の研究に触れることができる。また、東大では習得の難しい手法などのトレーニングを受けることができる。日本の学問状況を相対化するのによい経験であったと思う。

②留学後の予定

再度イェール大学に客員学生として一年間留学する予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学先で自分がやることを狭めないためには、なるべく早い時期に留学するとよいと思う。帰国後日本でやること

が決まっているほど、留学しても新しいことを学ぼうとする意欲が少なくなるように思う。

11. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

日米教育委員会が毎年出している『アメリカ留学公式ガイドブック』が役に立つと思う。